

第1回 高1英語

総 評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力、試験時間内に与えられた英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフ、英文全体の文脈を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認しておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

ナチュラルな読み上げスピードによる放送であった。放送前に設問に目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておく必要がある。計算が必要な設問は適宜メモを取りながら聞くこと。聞き取りにくかった箇所については、放送された英文を音読して復習しておこう。

A

英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長く、英文を聞きながらの素早い判断が求められる。放送された英文自体は難解なものではないが、映画に関する情報、2人の映画に対する評価について正確に把握する必要があった。

B

Part 1

(3) 設問文中の NOT true を見落とさないこと。

Part 2

ディクテーションでは、文脈と単語の知識も活用して推測することが必要となる。つづりミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。

(1) 特定の日付の前には on をつける。

(3) free of charge は「無料で」の意。

2 文法・語法

文法事項は、受動態、助動詞、不定詞／動名詞、仮定法、動詞の語法など広い範囲を含めた。(5)や(9)は文脈も把握する必要がある。イディオムの意味も復習しておこう。

3 英作文

この大問では、語彙・構文の正確な知識と、それらを組み合わせて適切な英文を作り、表現する力を問うている。

A 整序英作文

採点は、部分ごとの加点は行わず、英文全体として意味を成さない解答は配点分の減点とした。

(1) in such a hurry that … という語順に注意。

(2) which way to choose は名詞句で、動詞の目的語になることを確認しておこう。

(3) 間接疑問文は<疑問詞+S+V>の形になる。

(4) 暗唱できるレベルにまでしておきたい構文。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、グラフの数値の変化や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。グラフの情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 空所後の「ゴミが増えた理由」についての会話につなげるためには、①2012年以前と比べて、②ゴミの量が増加していること、の2点を含める必要がある。①、②いずれかのポイントが欠けていたり空所前の文とつながらなかったりした場合はー3点とした。

(2) 「学校内のゴミを減らすための、個人でできる具体的方策」をポイントとし、具体的でない内容は減点対象とした。つづりミスや文法面でのケアレスミスをしないよう、書き終えたら必ず見直すこと。

C 和文英訳

(1)、(2)ともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

(1) ○成績が落ちたので ……3点

○父にひどく叱られて ……3点

○3日間ケータイを取り上げられました ……4点

「取り上げる」を take だけとした答案が散見された。take away といったイディオムを覚えておくと

英語表現の幅が広がるだろう。

(2) ○ケータイなしの生活を経験してはじめて

……5点

○いかにケータイに依存していたかがわかりました

……5点

「依存していた」を *depend* など現在時制で表した答案が多々見られた。時制のケアレスミスには十分注意を払うこと。

4 長文読解

引っ越し先で知り合った女の子、筆者の父母とのやりとりをもとに、筆者が物を盗むに至った心理を描写した文章。登場人物の発言の意図を正しく把握することが大切である。設問で取り上げた下線部は内容理解において重要な箇所なので、復習の際はダミー選択肢についてもよく読み、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。なお、出典は今年度ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの自伝である。余力のある人は原書を読んでみてほしい。

(3) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ Are you trying to bring shame on us ……5点

○ that we can't afford to buy such things

……3点

bring shame on O は「O に恥をかかせる」の意。

「恥を持ってくる」など不自然な訳出は減点対象とした。

(4) 本文の *Safina is younger than you and you should have taught her better* 部分が参照箇所。

「誰に」, 「何を」, 「どうする」を解答に含めること。

<should have+過去分詞> (…すべきだったのに (しなかった)) の意味を正しく覚えておきたい。

5 長文読解

筆者が自身の経験談を交えながら失敗から学ぶことの大切さを述べた英文。

(1) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ The sooner you do this ~, the better ……8点

○ after recognizing your mistake ……4点

this の内容を正しく訳出できていないものは4点の減点とした。this は「謝ること」を指している。

(3) 本文では① I apologized ② I appreciated

the feedback ③ I told her it was helpful to know I had inadvertently misrepresented myself. が参照箇所。筆者の「行動」を問うているため、③で「自分の熱心さが誤解を招いたと知ったこと」などとしたものは減点対象とした。

(4) 和訳問題。以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ those who show that they are willing to learn

……6点

○ can turn negative situations around ……4点

○ very effectively ……2点

negative をカタカナ語で「ネガティブな」と直訳したものは減点対象とした。turn O around はここでは「O を好転させる」の意。「O を回転させる ; O を転がす」など不自然な訳出をしたものは減点とした。